

全国学力・学習状況調査追加分析テーマ(平成19年度～23年度)

| | | 分析内容 | |
|---|---|------|----------|
| 平成19年度全国学力・学習状況調査追加分析 (文部科学省) | <ul style="list-style-type: none"> ○学力と学習習慣・生活習慣・学校の取組等の関係の分析、児童生徒の生活の諸側面に関する分析を実施。 ○習熟度別少人数指導について、平均正答数、学力層、学習に対する関心・意欲・態度との関連を分析。 ○指導方法等に関する取組と、各学力層の割合との関連や低学力層の児童生徒の関心・意欲・態度との関連について検証。 ○各学校、教育委員会等において、調査結果を分析・検証し、教育や教育施策の改善に取り組む際に参考になる手法として、「『全国学力・学習状況調査結果チャート』を用いた学力・学習状況に関する分析・検証手法」を開発。 | | |
| 平成20年度全国学力・学習状況調査追加分析 (文部科学省) | <ul style="list-style-type: none"> ○平成19年度から20年度にかけて低学力層を減らした学校、高学力層を増やした学校を取り上げ、指導方法等を分析・検証。 ○習熟度別少人数指導について、各学力層の割合や児童生徒の教科に対する好き嫌い、自尊感情との関連について分析を実施。 ○児童生徒の家庭生活や家庭学習に関する項目と、学力との関係を探求することを目的とした分析を実施。 ○学力や学習習慣に、学校における学習指導がどのように関与しているかを図示する統計的モデルを構築。 | | |
| H20年度:委託調査の研究テーマ | 分析(委託)内容 | 委託先 | |
| 全国調査の結果による市町村・学校のサンプリング手法及び教員等に対する補完的な追加調査を実施・活用する調査分析手法の調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> ○保護者等に対する補完的な追加調査を設計・実施し、その中で個人情報保護しつつデータを収集する方法や、全国調査と補完的な追加調査のデータを結合する手法の開発を行う。 ○得られたデータを用いて、家庭背景と子どもの学力の関係や、不利な環境にある子どもの学力の底上げに成功している学校の特徴についての知見を得る。 | | お茶の水女子大学 |
| 国や市町村等が保有しているデータを補完的に用いた調査分析手法の調査研究 | <ul style="list-style-type: none"> ○全国学力・学習状況調査と都道府県が独自に実施している学力調査等の結果を用い、学習状況や学習指導との関連を多面的に分析する。 ○全国調査と都道府県実施の調査とを効果的に接合して活用する手法の検討のために、独自調査を実施する都道府県・政令指定都市教育委員会を対象に質問紙調査を実施する。 ○学校周辺情報に関するデータを全国学力・学習状況調査の補完データとして分析する手法の開発を行い、学校周辺地域の所得水準と学校の学力水準の関係についての試行的な分析を実施する。 ○ICT環境整備状況に関する調査と全国学力・学習状況調査のICT活用頻度に関する調査項目を用い、教育の情報化実態と学力との関連について調査分析を行う。 | | 横浜国立大学 |

| H21年度:委託調査の研究テーマ | 分析(委託)内容 | 委託先 |
|----------------------------------|---|--------|
| 地域におけるデータ等を補完的に用いた調査分析手法の調査研究 | <p>○全国学力・学習状況調査のデータと県独自の学力調査を連結した児童生徒レベルまたは学校レベルのパネルデータを作成し、全国学力・学習状況調査または県独自調査だけでは十分に明らかにできない児童生徒や学校の変化に着目した分析を行う。</p> <p>○学校での指導方法や学校経営の在り方、家庭での学習・生活が現在の学力に及ぼす影響を分析し、学習指導や教育施策に関する示唆を得る。</p> | 広島大学 |
| 地域におけるデータ等を補完的に用いた調査分析手法の調査研究 | <p>全国学力・学習状況調査のデータと、過去に作成し、実施された自治体独自の調査を用いることにより、学力の経年変化をとらえる方法を考案し、その有効性を実際のデータを用いて示すことを目的とする。</p> | 名古屋大学 |
| 教科指導におけるICT活用と学力・学習状況の関係に関する調査研究 | <p>○ICT活用による学力向上の効果を具体的に明らかにするために、文部科学省の「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の調査結果を基にICT環境整備状況が高い小学校を選び、当該小学校を対象にICT機器の活用方法や活用頻度等について追加調査を実施し、全国学力・学習状況調査の結果を合わせて分析する。</p> <p>○追加調査を行った中から、ICT活用の効果が顕著に見られる地域の教育委員会、学校に聞き取り調査を行い、データの検証等を行う。</p> | 横浜国立大学 |
| 読書活動と学力・学習状況の関係に関する調査研究 | <p>○全国学力・学習状況調査データを分析することにより、読書活動や学校図書館の充実・活用が学力向上に及ぼす影響を明らかにし、各学校において学力向上の取り組みに読書活動や学校図書館の活用を取り入れることに関する知見を得る。</p> <p>○平成18、19年度に文部科学省の委託研究として行われた新教育システム開発プログラム「図書の充実」の協力校から、全国学力・学習状況調査で向上の見られる学校を選定し、事例調査を行う。</p> | 静岡大学 |

| H22年度:委託調査の研究テーマ | 分析(委託)内容 | 委託先 |
|---|---|-------|
| 全国的な学力調査の調査手法における技術的課題に関する調査研究 | これまでの調査結果や調査の切り替えの状況を踏まえつつ、(経年比較可能な仕組み等)新たな分析を可能とする調査手法について調査研究を行い、全国的な学力調査へ適用した場合の問題点等について検討し、技術的課題や政策的課題を明らかにすることで、今後の全国的な学力調査の調査方法の改善に資する事を目的とする。 | 東北大学 |
| 子どもたちの学力水準を下支えしている教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究 | 教育的に不利な環境にあるにも関わらず、比較的良好な結果を示すなど、子どもたちの学力水準の下支えが出来ていると考えられる教育委員会・学校等における、教育施策・教育指導等の特徴について分析を行うとともに、具体的な教育施策の効果等を検証し、学校現場における効果的な取組事例を収集することを目的とする。 | 大阪大学 |
| 全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究 | 比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴について分析を行うとともに、具体的な教育施策の効果等を検証し、学校現場における効果的な取組事例を収集することを目的とする。 | 早稲田大学 |
| H23年度:調査の研究テーマ | 分析(委託)内容 | 委託先 |
| 全国的な学力調査の調査手法における技術的課題に関する調査研究 | <p>○教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立するに資する時系列による学力水準の比較(経年変化の分析)のための調査研究を実施。</p> <p>○地方の実情に応じ、全国的な学力調査と地方独自の調査データを結合することにより、全国的な学力調査が担ってきた役割の一部を地方独自の調査が担うことが可能となる仕組みに関する調査研究を実施。</p> | 東北大学 |
| 学力層に着目した教育委員会・学校等における取組に関する調査研究 | 全国学力・学習状況調査の結果において、児童生徒の教科別の学力層に着目し、それぞれの児童生徒がどのような要因(家庭や学校での生活や学習、学校の指導や経営等)で学力が向上しているかについて調査研究を実施。 | 広島大学 |